



有限会社久工機では、社長から経営戦略についても説明を受けた

### 社員の手で生み出す カイゼン活動

「私たちの会社は、3S活動を徹底しています！」  
広い空間に整然と並べられた機械のそばで、社員がてきぱきと作業をしている。その横に目をやると壁に大きなパネルが。金づちやペンチなどの工具が、線を描くように一つ一つきれいに掛けられている。

7月下旬、大阪府東大阪市の工業地帯の一角、榎木金属工業株式会社を訪問したウズベキ

### アジア各地に広がる 研修の成果の種

研修員たちは、ウズベキスタン国内の民間企業に勤めるビジネスマンや起業を志す未来の経営者、製造業からサービス業まで携わる分野は異なるが、独立後の市場経済化に対応すべく「ビジネスのノウハウを習得したい」と、日本センターのビジネスコースを受講している。

「顧客が満足するサービスを提供するためには、まず社員が満足できる労働環境を整えることがカギ」。製紙メーカーに勤めるタイケノヴァ・カミールさんは、こうした株式会社関西ホームサービスの理念に感銘を受けたという。「まずは社員の間でコミュニケーションを活性化し、団結力を高められるような仕掛けをつくっていききたい」と意欲を燃やしていた。

JICA大阪は2002年、ウズベキスタンに加えて、カザフスタン、キルギス、ベトナム、ラオスの日本センターのビジネスコースで生産性向上などを学ぶ企業家を対象にしたビジネス実務研修をスタート。これまで150人以上が、日本企業のカイゼンの現場を視察してきた。

## 日本企業の 底力を学ぶ

長年にわたって、  
日本企業の発展を支えてきたカイゼン活動。  
その実践の場をこの目で確かめようと、  
中央アジアのウズベキスタンから  
ビジネスマンの研修員たちがやって来た。



スタンのビジネスマン。同社は創業94年、社内業務のあらゆる場面で「整理、整頓、清掃」の3Sを推進。社員一人一人の地道な努力により、「技術」と「生産性」において、日本の金属加工業でトップレベルを維持してきた。

今回、来日したのはJICAが運営を支援する「ウズベキスタン日本人材開発センター（通称・日本センター※）」が開講するビジネスコースの成績優秀者6人。5カ月にわたり、生産管理やマーケティングなど基本的な

ビジネススキル、日本の企業理念や経営方法などの理論を徹底的に学んだ後、JICA大阪が実施する「ビジネス実務研修」に参加。フィールドワークの一環として、関西を中心に10数社の企業を訪問し、経営幹部からは経営ノウハウを、社員からは業務を効率的に進める「カイゼン」の工夫を教わった。

この日は、常務取締役の榎木孝至さんの引率の下、榎木流カイゼン活動の現場を視察。「必要なものが、いつでも、誰にでも、すぐに取り出せることが大

「もちろん、日本のやり方がそのまま適用できるわけではありません。カイゼンのノウハウを自分なりに理解し、各企業に合ったアクションを見つけ出してもらうことが狙いです」と、研修を担当する財団法人太平洋人材交流センター国際交流部担当部長の瀬戸口恵美子さんは話す。

来のやり方を簡単には変えられない苦労がありながらも、日本の研修で学んだことを確実に生かしていた」と、現地での当たりとした彼らの努力を強調する。従業員のみーティンクを定例化したり、新たに掃除の時間を設けたり。至る所でたくさんの変化が起こっていた。

(上)イトアンド株式会社が展開する大阪王将のぎょうざ作りを体験  
(下)榎木金属工業の社員から、工具整理パネルについて説明を受ける研修員たち



ウズベキスタンの研修員、スチリナ・マリナさんから送られてきた写真。日本で視察した工具の整理ボードや庭掃除など、早速カイゼン活動を始めていた



そして今回の研修から1カ月後、参加者の一人であるスチリナ・マリナさんから便りが届いた。機械の開発・製造を行う企業で財務関連の業務を担う彼女は「少しずつできることから始めています」と、工具をパネルに整理した写真などを送ってくれた。他方、視察先となった日本の企業側からは、研修員の受け入れを通じて、「社内でも取り組んできたカイゼン活動が、海外の企業でも役立つ普遍的なものがあることを再認識した」との声も聞かれる。

日本の企業を支えてきたカイゼン活動は、海を越えて、世界各地に確実に広まっている。

商品を消費者に浸透させるため、調理方法などについての提案活動を行うマロニー株式会社



from ウズベキスタン  
**UZBEKISTAN**

※市場経済化を担う人材育成の拠点として、JICAの支援を通じて、8カ国9カ所（ウクライナ、ウズベキスタン、カザフスタン、カンボジア、キルギス、ベトナム、モンゴル、ラオス）に設立。技術協力プロジェクトによりJICAが運営を支援している。